

2018年 1月

少子高齢化社会を助ける新しいまちづくり ～SST (Sustainable Smart Town)～

経営学部 経営学科 幡鎌ゼミ
B4R11136 長橋翔太

【卒業論文概要】

日本において少子高齢化社会は重要な問題である。高齢者の孤独死、また若者の人間関係の希薄化、それに伴う引きこもり、自殺。果たして日本人は自分の人生を幸せに生きいきがいを感じているのだろうか。私は現在神奈川県藤沢市で行われている SST と呼ばれるまちづくりが少子高齢化社会である日本における改善策であるのではないかと思い注目してみた。私たちにとっても身近な問題である少子高齢化社会それに日本はどう対処していくのか。まだなじみがない SST と呼ばれる街づくりについてまとめる。

本論文の目的は、今後の日本において必要になってくる物事を多世代からの観点で考えることによって SST が少子高齢化社会にとってどのように助けていくかをまとめる。

藤沢市で行われている SST のまちづくりを中心にこれから新規にできる綱島の SST を参考にしながら多世代交流、地域包括ケアの点を詳しく調べた。

少子高齢化社会は主に社会、経済また個人に大きく影響を与えるとされている。社会的には主に生産年齢人口の減少による労働者一人分の負担、出産の負担、ネグレクト。経済的には主に労働力人口の減少を通じた労働投入量の減少、国全体の貯蓄の減少。個人的には主に貯蓄の取り崩し、孤独死などがあげられる。

国はそれに対応するため少子化対策、高齢化対策を行っているが正直な感想対応が追い付いていないように思える。若者のいじめによる自殺であったり、ニートの増加であったりと国を回す人口である生産年齢人口が減少し高齢者を支えるのが困難になっているいまほかの人材で支えることが大事である。それを全部踏まえて対応できる新しいまちづくりそれが SST だと私は考える。SST と従来のスマートシティに大きな違いはないが従来のスマートシティと比べ人中心のまちづくりに重点をあてている。特に藤沢 SST ではこの少子高齢化社会の改善策として多世代交流、地域包括ケアに力を入れている。

多世代交流を行うことで高齢者には心身の健康上昇、身体機能の向上はもちろんのこと子どもたちを含めた多世代とかがかわることによって人生の生きがいを感じることができまた若者、主に子どもにも年長者と関わることで思いやりといった社会性の教育を学ぶ場ともなる。また地域包括ケアは 0 歳から 100 歳を超えてもすべての人が住み慣れた地域で生きがいを感じて暮らし続けるまちづくりとなる。これにより一つの施設ですべての人が世代を越えてかかわりあうことができる。少子高齢化社会においてすべての世代が協力しあえるまちづくりが大事でありそれがこれからの日本の課題だと感じる。